

東アジア木版文化の世界

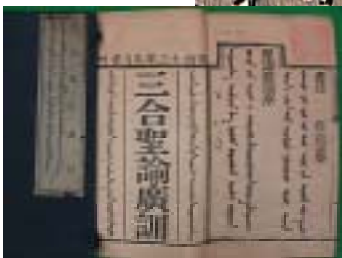
金属活字を用いた印刷術を発展させたヨーロッパ世界に対し、東アジア文化圏では長年にわたって印刷技術の中心は木版印刷でした。そこで第4回目となる今回の特別展示では、モンゴル語木版印刷の代表とされる北京版を中心に7タイトルを展示・ご紹介いたします。



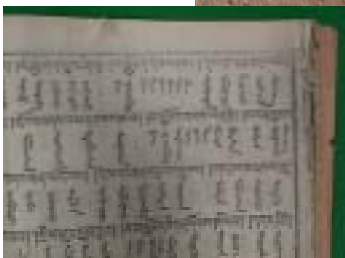
展示



展示



展示



展示



展示



展示



展示

—北京版モンゴル語文献を中心に—

平成15年11月4日(火)～11月29日(土)
於 附属図書館2階貴重書展示コーナー

展示資料解説

展示

Üliger-ün dalai-yin sudur

(Uliger-un dalai-yin sudur)

日本では『賢愚経』という漢語訳で知られている經典。教訓的内容をふくみチベット、モンゴルでもたいへん人気があった。代表的訳経者のひとりシレート・グーシ(Shireet guush)が16世紀すえか17世紀のはじめにチベット語からモンゴル語に訳した。1718-20年に北京で編纂開版されたモンゴル語版大蔵経『ガンジョール』の第90巻にはいつているほか、単独でも出版された。本学所蔵のものは康熙53年(1714年)8月8日の日付をもつ北京木版本である。19世紀にはロシア領シベリアのブリヤートでも木版で印刷され普及した。(請求番号:MO-V-855)

展示

Ilaju tegüs nög čigsen burqan ba ʻysi-yin gegen-ü teyin arıy un namtar čadig ʻayıqamsıy Jokiya-l-i endegürel ügegüy-e ö gülegsən sayıtur oduysan-u degedü yabudal-un sang

(Ilaju tegus nogcigsen burqan bagsi-yin gegen-u teyin arıgun namtar cadig gayiqamsig jokiya-l-i endegürel ugeguy-e ogulegsen sayıtur odugsan-u degedu yabudal-un sang)

全2巻の『釈尊伝』で、『釈迦牟尼仏源流経』という漢語のタイトルがふされている。原典は、ガルサン・チューキ・ギャンツォ・ソナム・ワンポ(skal bzang chos kyi rgya mtsho bsod nams dbang po)作のsang rgyas bcom ldan 'das kyi rnam par thar pa rmad du byung ba mdzad pa 'khrul ba med par brjod pa bde bar gshegs pa'i spyod pa mchog gi gterという15世紀のチベット語の作品。訳者は、チャハル・ゲブシ・ロブサンチュルテムの弟子で、師の伝記をモンゴル語でかいたシャブロン・ロブサンサンラブニヤム(blo bzang bsam drub nyi ma)。長文の韻文でかかれた出版者(シャブロン・インダンザンラブジャイ)のコロフォン(奥書き)も、それ自体、すぐれた文学作品になっている。

清代の同治10年(1871年)7月18日の日付をもち、北京木版本のなかでも、もっとも後期のものに属する。

稀覯本で、中国内には、完全なものは、北京の中国国家図書館に1セットあるのみである。(請求番号:MO-V-854)

展示

Sukavadi-yin oron-u Jokiya-l-i ögülegsən üge ari ʻyun oron-u erdem-i todorqay-a ü Jëgülkü bilig-ün toli kemegdekü orosiba

(Sukavadi-yin oron-u jokiya-l-i ogulegsen uge arıgun oron-u erdem-i todorqay-a ujegulku bilig-un toli kemegdeku orosiba)

ロブサンチュルテム作『極樂の様を説法したる書、浄土を明示したる知恵の鑑』。チャハル・ゲブシ・ロブサンチュルテム(Chaqaq gebshi Lubsangchulitim, 1740-1810年)は、『ツォンカバ伝』をはじめ、モンゴル語、チベット語で多数の作品をのこした、モンゴル仏教史上きわめて重要な学僧。代表作のひとつであるこの作品は、最初、かれ自身の寺院チャガン・オール寺(内モンゴル)で開版され、つぎに北京版、さらにあとでイフフレー(現在のモンゴルの首都オラーンバートル)版、ブリヤート版(東シベリア)が刊行されたとかんがえられる。チベット語からの翻訳ではなく、モンゴル人僧侶がモンゴル語でかいたオリジナルな作品だという点が貴重である。本図書館所蔵のものは、あきらかに北京版で出版年代は18世紀後半と推定される。(請求番号:MO-V-851)

展示

Jarlıy-ıyar toytayaysan JalıyaJu Jokiya ʻysan yadayadu mongy ol qotong ayımay-un vang güng-üd-ün šastir

(Jarlıy-ıyar togtagagsan jalgaıu jokiyaıgsan gadagadu monggol qotong ayımag-un vang gung-ud-un shastir)

漢語のタイトルは『蒙古王公伝』。欽定外藩蒙古回部王公表伝』は、モンゴルの貴族の正式な系図・伝記として歴史研究に重用されてきた。最初、乾隆の末年に編纂され、その後、何度も続編が出版された。清代の他の官版と同様、マンジュ語、モンゴル語、漢語で出版された。

* モンゴル語翻字タイトルはボッペ方式を上段に、アメリカ議会図書館方式を下段()内に記述した。なお、後者については音標符号は省略した。

漢語版が、台湾で影印版としてはやい時期に出たため、よくつかわれてきたが、モンゴル語の人名の正確なスペリングをするには、モンゴル語版をみる必要がある。『王公表伝』の初版のモンゴル語版は東京大学総合図書館に所蔵されている。本学に所蔵されているのは、記載されている年代から判断して、3回目の出版である『道光19年(1839年)続修本』のモンゴル語版とおもわれる。本来は「表」12冊と「伝」12冊でセットになっているが、本学にあるのは「伝」のみである。(請求番号:MO-IV-110)

展示

『三合聖諭広訓』

清の康熙帝のあらわした教訓書。マンジュ(満州)語、モンゴル語、漢語の3言語で印刷され、清代をとおしてたいへんよくよまれた。本学図書館には2種類の木版本が所蔵されている。本書は同治13年(1874年)刊のものである。マンジュ語のタイトルは、llan hacin i gison kamcibuha enduringge tacihyan be neileme badarambuha bithe。モンゴル語のタイトルは、Gurban jüil-ün üge qadamal boyda-yin suryal-i sengkeregül-ün badarayuluysan biçig。(請求番号:MO-III-96)

展示

Törökiten-ü manglai da ʻyun körbegülügči marba lotsau-a nom-un oyutu-yin namtar ü Jëgseger tusa tegülder

(Torokiten-u manglai dagun korbegulugci marba lotsau-a nom-un oyutu-yin namtar ujegseger tusa tegulder)

6章からなるマルバの伝記(sgra sgyur mar pa lo tsA ba'i rnam thar mthong ba don yod。チベット語)のモンゴル語訳。マルバは有名なチベットの遊行僧ミラレバの師で、カギュー派の祖のひとり。伝記の著者は、gtsang smyon he ru ka rus pa'i rgyan can(1452-1507)で、『ミラレバ伝』の作者、ミラレバ『十万歌謡』の編者としても知られる。1505年ごろの作品。

訳者は、アグワンロブサンガルサンジャンバ(Vagindra Sumati Kalpa Bhadra Dana, 1816-1873?)で、1871年にロシア領ブリヤートのオン・ツェル寺院で開版された。このアグワンロブサンガルサンジャンバが刊行した版本の目録が計6種類、やはり木版で出版されており、それらによると、かれはモンゴル語の木版本を51種類、チベット語の木版本を67種類刊行している。本書は、モンゴルの木版本のなかでユニークな位置をしめるブリヤート木版本の代表的作品とみることができ。(COEプログラム『史資料ハブ地域文化研究拠点』2002年度購入)

展示

Bod kyi gsal byed yig 'bru kun la skor dbye ba 'i bsud pa bam po so gnyis brda sprod pa nag 'gros me long

チベット・モンゴル語辞典(タイトルはチベット語)。全8巻。編者のなまえは記載されてないが、ソミヤー・ロボン(Sumiy-a lobon)が編纂したとかんがえられている。版木はイフフレー(現オラーンバートル)のダンジョール寺で作成された。ダンジョール寺は、チベット語カンギュル(大蔵経仏説部)にひきつづき、チベット語テンギユル(大蔵経論部)を出版するためにつくられた印刷所であり、実際に一部の印刷がおこなわれた。テンギユルの出版年代からかんがえて、この辞書は1910年代前半に出版されたと推定される。コロフォン(奥書き)によると、師のゲレグ・ゲブシのすすめで、フルンボイルのハイラルで編纂された。ソミヤー・ロボンは、イフフレーで著作集(チベット語、1巻)を出版したことが、知られているが、くわしい経歴は不明である。

本書は、イフフレーで刊行された木版本としては、もっとも後期のものに属するが、その丁数はモンゴル語をふくむ版本のなかでは最大であり、重要な出版物と評価されている。(二木博史蔵書)

選定・解説：本学外国語学部教授 二木 博史